

## 巻 頭 言

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

附属中等教育研究センター

センター長 植 田 健 男

本年度も、中等教育研究センター長を務める傍ら、附属学校担当の副学部長（副研究科長）として、附属学校に関連するさまざまな活動にも携わってきました。さらに、本年度から、東京大学・大学発教育支援コンソーシアム推進機構（略称「東大CoREF」）の事業に参加することになるなど、新たな展開もありました。こうしたことを積極的に活用して、今後も、ますます中等教育研究センターとしての社会的役割を果たせるように努力していきたいと思っております。

さて、ここにセンター紀要第十二号をお届けさせていただきます。今回は、二本の個別論文と報告から構成されています。必ずしも十分とは言えないかもしれませんが、この一年間の中等教育研究センターの活動や研究の成果を示したものになっていることと思っておりますので、ご批評のほど宜しくお願い致します。

国立大学の法人化以降、依然として、大学と同様、その附属学校をめぐる状況は不安定であり、先行きが十分に見えない状況にあります。そうしたなかにもありながらも、名古屋大学教育学部附属中学・高等学校では、あるべき中等教育の姿を目指して、さまざまな取り組みを着実に進めてきています。名古屋大学全学教育科目・基礎セミナーへの附属高校生の参加、名古屋大学との短期集中型高大連携企画である中津川セミナーも丸三年を経て本格的な取り組みとなりつつありますし、一昨年度にユネスコ・スクールの認証を受けて以降、名古屋大学のグローバル・サーティ（G30）に連携した国際化の企画は、一層、意欲的に展開されています。

附属学校がこれまで展開し、蓄積してきた豊かな中等教育の成果をもとにして、名古屋大学とどのようなかたちで実質的な連携を築き上げ、高等教育にいかなる貢献をしていくのかは、今なお、重要な課題です。その母体となる教育学部・教育発達科学研究科もまた、中等教育研究センターを先頭として、普遍的な中等教育の問題だけでなく、附属学校のこうした具体的な課題や事例を通して、教育・研究活動を積極的に展開していきたいと思っております。

これまでもまして、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。